

農業クラブの3大目標のひとつである「社会性」(コミュニケーション能力や積極性等)を身に付け、更に人間性を高めて行くためにはどのようにしたらよいか。

東海ブロック 愛知県立安城農林高等学校

生物工学科 3年 上田 暁子
園芸科 3年 小林 舞衣
食品科学科 2年 高良 紘生

1 はじめに

(1) 東海ブロックの概要

東海ブロック連盟は岐阜県、三重県、愛知県で構成され、岐阜県は7校2,879名、三重県は6校1,740名、愛知県は10校3,841名、あわせて23校8,460名のブロックです。農業クラブ活動が活発で今までの全国大会において多くの入賞を果たしています。

(2) 愛知県連盟の概要

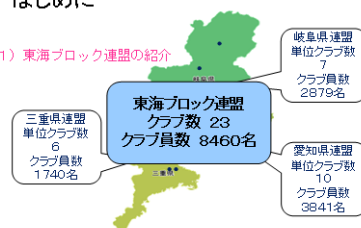
愛知県連は、10校の単位クラブから構成されており、単独校は渥美農業高校、安城農林高校、稲沢高校、猿投農林高校、半田農業高校の5校、他学科との併置校は佐屋高校、新城高校、新城東高校、田口高校の4校と総合学科設置校の鶴城丘高校から構成されています。愛知県連盟は近年学級数が増えたことで、クラブ員数が増加し、平成23年度にはクラブ員数が全国で最大となり、3,800名を超えるクラブ員を抱えています。

(3) 安城農林高等学校の紹介

本校は安城市の北部に位置しています。明治時代の明治用水の開通により大規模な開墾が行われ、農業の先進的な取り組みが行われたことから、農業先進国のデンマークに例えて「日本デンマーク」と呼ばれています。現在は、自動車工業を中心とする機械工業も盛んです。明治34年に開校し、今年で116年を迎える歴史と伝統のある学校です。農業科、園芸科、フラワーサイエンス科及び生物工学科、食品科学科、森林環境科、動物科学科2クラスの6学科7クラスあり、全校クラブ員数は約830名と、愛知県内の農業高校で1番のクラブ員数と敷地面積を誇ります。

1 はじめに

(1) 東海ブロック連盟の紹介



(2) 愛知県連盟の紹介



農業科は、畑作や水田で作物を栽培し、農業機械について学びます。安農マーケットの運営もします。

園芸科は、ナシやブドウなどの果樹や、施設栽培でトマト、メロンを生産します。

フラワーサイエンス科及び生物工学科は、草花の栽培やフラワーデザイン、植物バイオテクノロジーについて学びます。

食品科学科は、食品に含まれる栄養素や食品に利用される微生物について学びます。

森林環境科は、林業や造園について学び、木材加工をしたり演習林で作業をしたりします。

動物科学科は、ウシ、ブタ、ニワトリをはじめとした家畜やさまざまな動物の飼育管理と先端技術を学びます。

また、交流学习として、愛知県連盟で毎年ホームステイを行っている F F A との交流を行い、本校では友好校である東京都立園芸高等学校や、姉妹校のフランスのラブロス農業高等学校との交流を行っています。フランスのラブロス農業高等学校へは、三年に一度、訪問活動を行っています。寮教育も行っており、遠隔地の男子生徒のための済美寮と一年生全員を対象とした青雲寮の二つの寮があります。青雲寮は短い期間寮に入り、学習活動や基本的な生活習慣を身に付けることを目的としています。

2 社会性の向上と農業クラブ活動について

私たちは、「農業クラブの3大目標のひとつである「社会性(コミュニケーション能力や積極性等)を身に付け、更に人間性を高めて行くためにはどうしたらよいか。」について話し合いました。

(1) 社会性を高めるには

農業クラブの3大目標のひとつである社会性とは、自分が社会の一員である意識をもち、様々な意見や役割をもって互いに尊重し、助け合っていく態度を身に付けていることです。そのため、この社会性を身に付けるためにはコミュニケーション能力と積極性を高める必要があると考えました。

(2) 本校での活動

先に述べたコミュニケーション能力は、老若男女問わず様々な人と交流することを通して高まっていくと考えます。現在本校で行われている行事は、文化祭や安農マーケットでの販売活動です。安農マーケットとは、農業科のクラブ員が中心本校は安城市の北部に位置しています。明治時代の明治用水の開通により大規模な開墾が行われ、農業の先進的な取り組みが行われたことから、農業先進国のデンマークになって、クラブ員が自分たちで育てた農作物を販売します。週に一回販売活動を行っており、地域の人が購入に来ます。今の時期はメロン、モモ、ピーマン、ナス、トウモロコシ、ハイビスカスなどを販売しています。また、各学科や部活動の特徴を生かした活動も行っています。その例として、農

所在地 愛知県安城市池浦町



今年で創立
116年目

6学科7クラス

生徒数 約830人

社会性とは?

自分が社会の一員である意識をもち、
様々な意見や役割をもって互いに尊重し、
助け合っていく態度を身に付けていること

身に付けるには...

コミュニケーション能力と
積極性を高める

安農マーケット



農業科の生徒が中心となって、
自分たちで育てた農作物を販売します。
週に一回販売活動を行います。

業科では小学生との田植え・稲刈り・餅つきの体験を通じて、交流を行っています。フラワーサイエンス科及び生物工学科では、特別支援学校の生徒との寄せ植え体験があります。部活動では馬術部によるホースセラピーへの参加、安城市で行われる田んぼアートなどの活動があります。田んぼアートは安城市の農家の主催で本校のクラブ員がスタッフとして地域住民の方と田植えや稲刈りを行います。

私は、特別支援学校の生徒と寄せ植え作り体験をしました。体験前は、仲良くなれるか、話がうまくできるか不安でした。しかし、実際に体験すると、一緒に作業しているあいだに打ち解け、話しかけることができました。体験後には雑談もできるぐらいまで仲良くなりました。

(3) 課題と改善

これらの活動では参加者と直接関わりをもつため、コミュニケーション能力が鍛えられます。また、これらの活動に参加しているクラブ員は、他の行事にも参加しているクラブ員が多く、積極性も高いと考えます。そのことから、活動に参加しているクラブ員は社会性が身に付いているといえます。しかし、現在の活動に参加していないクラブ員は参加しているクラブ員に比べ、自ら行動する積極性と、多くの人と関わる機会が少ないため社会性を向上させるチャンスが乏しくなっていると考えました。

そこで、現在行われている安農マーケットの改善をすることとしました。安農マーケットは、本校で行われている販売活動のことです。安農マーケットでは、クラブ員が自分たちで育てた農作物を販売します。3年生ともなればコミュニケーションをとることが、上手な人が多いですが、1年生や、2年生ではコミュニケーションを上手にとれる人が少ないように感じます。この理由としては、農作物についてまだ詳しく知らないことが原因ではないかと考えます。これを改善するためには、農作物について詳しく知る機会を作ることが必要です。特に自分たちの育てた農作物について自信をもつことが大切だと思います。自信をもつことで地域の人とコミュニケーションをとる機会が増えると考えます。

さらに、社会性を向上させる機会を作ること課題とし、執行部員で話し合いました。

まず、参加しない人はどうして出てしまうのかを考えました。その理由としては、やることが分からない、面倒などの意見が挙がりました。

これを改善する方法として、まず、情報発信すること、賞品や賞状による「やる気」の向上、なにより楽しんで行うことが重要だと考えました。これをもとに学校でできることを考え、参加しやすい①挨拶運動②清掃活動、③地域の人たちと一緒に農業をするという3つの案が挙がりました。



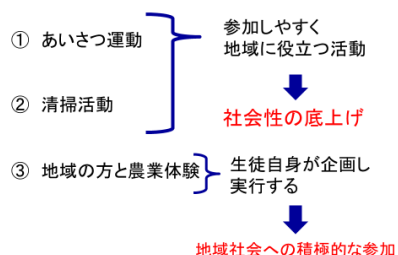
2. 特別支援学校の生徒と寄せ植え体験

特別支援学校の生徒と一緒に寄せ植えを作ります



課題

社会性を向上させる機会を作ること

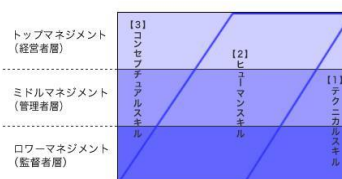


①と②の活動は、今までの活動に参加していないクラブ員でも参加しやすく、簡単な活動です。

さらに、地域や社会に役立つ活動をすることで全校生徒の社会性の底上げにつながります。③の活動では、専門的な学習を行っているクラブ員と一緒にうね立てや播種、収穫などの作業を地域の人たちが体験できます。これらの活動はクラブ員自身が企画し、活動した人も楽しめるものにします。自分たちの力で活動を行うことで地域社会への積極的な参加につなげることができます。

次に、全校生徒のコミュニケーション能力を調査するためアンケートを行います。このアンケートは、ロバートカッツの理論を参考に制作しました。

ロバートカッツの理論とは、ハーバード大学の教授ロバート・カッツ氏が1955年に発表した、管理職の人材評価システムや人材育成プランを作るうえで基盤的な役割を担っている理論のことです。



出典:ロバート・カッツのスキル論より

この理論では、「テクニカルスキル」「コンセプチュアルスキル」「ヒューマンスキル」の3つのスキルが求められます。テクニカルスキルとは、オペレーション、業務遂行能力とも呼ばれます。業務知識や情報処理などの技術が必要とされます。コンセプチュアルスキルとは、概念化能力とも呼ばれるものです。創造力、企画立案能力など事象や状況を構造化し、問題の本質をとらえる能力です。ヒューマンスキルとは、対人関係能力とも呼ばれるスキルです。対人能力、提案能力などの相手とコミュニケーションをとる能力です。右の図より、どのような階層においてもヒューマンスキルに含まれるコミュニケーション能力が必要です。この理論の中には5つのコミュニケーション能力の話があります。5つのコミュニケーション能力には、儀式的コミュニケーション、活動のコミュニケーション、親交のコミュニケーション、尊重のコミュニケーション、創造のコミュニケーションがあり、それに基づいて11個の質問を作成しました。このアンケートの結果により全校生徒のコミュニケーション能力を数値化することができます。

現在

地域の人たちと関わることで、コミュニケーション能力が高まる

今後

私達執行部員が農業クラブ員の全校生徒のやる気、興味を引き出し積極的に参加できるような活動、地域の人たちが関わる活動を企画し、実施していくことが必要

そして、結果を表にまとめて執行部で改善点を話し合い、農業クラブの発行する新聞で、全校生徒に提示し、意識改善の呼びかけをしていきます。

3 まとめ

コミュニケーション能力と積極性を高めることは、社会性を身に付けることにつながります。現在の活動は地域の人たちと関わることで、コミュニケーション能力を高めることができています。今後は、私達執行部員が全農業クラブ員のやる気、興味を引き出し積極的に参加できるような活動、地域の人たちが関わる活動を企画し、実施していくことが必要です。また、農産物への興味、関心の高まる行事も企画し、自分たちの育てた農作物への知識を深め、自信をもつことも人間性を高めることに必要になると思います。

人間性を高めていくことは限界がなく、終わりがありません。だからこそ人間性を高めるためにこれらのことを少しでも実践できれば、人間性が一步步高まるのではないのでしょうか。